

■福生七夕まつりの歴史

<1951年>

仙台七夕まつりをヒントに、商店街振興のため中央商栄会が第1回の福生七夕まつりを開催。見物客で3日間にぎわう。翌年、福生町(現・福生市)全域の商店が七夕に参加し、竹飾りコンクールが始まった。

<1966年>

「福生音頭」が制作され、当時、新人の都はるみ、杉良太郎が歌手として起用され、2年後(1968年)には民謡パレードがスタート。

<1967年>

初日以外は大雨にたたられたことが契機となって、翌年から梅雨を避けて夏休み中の8月に開催されるようになる。

<1974年>

「ミス福生コンテスト」が誕生し、1977年には「ミス七夕コンテスト」(現「織姫コンテスト」)と名を改め、毎年ミス1人、準ミス2人の計3人を選ぶようになる。

<1993年>

市民の模擬店が出店されるようになる。

模擬店会場を「ギャラクシー・ストリート(天の川通り)」と命名し、2000年には「福生七夕音頭」も生まれた。

<2010年>

七夕飾りに市の補助金が出されるようになる。また、第60回七夕まつり記念、市制施行40周年記念ということで11年ぶりに花火大会が復活し、空前の人出でにぎわった。

<2011年>

東日本大震災の影響で一時開催が危ぶまれたが、“七夕「トモダチ」作戦”と題して、予定通り開催された。

※ 商店街振興のために始められた七夕まつりではあるが、市民模擬店の出店を契機に、次第に市民の祭りとしての色合いを深めている。